

市民リポーター  
西巻弘光さん



●にしまき ひろみつ  
美園町在住。68歳。  
室蘭市出身。元小・中学  
校の教員。観光ボランテ  
ィアガイドを務め、観光  
客とのふれあいを大切に  
している。



# 郷土を愛する 気持ちを大切に

## 郷土芸能『熊舞』

### 伝説から生まれた 『熊舞』

登別温泉には次のような伝説があります。

「数百年前、けもの道しかなかった登別温泉の湯沼には、キツネや熊などの動物が薬湯につかっていた。この地に初めて足を踏み入れた狩人が、山中で熊と出会い、最初は驚いたが、やがて心が触れ合うようになり、その熊の道案内で地獄谷を発見した」という話で、これが湯量豊かな登別温泉の発見

狩人と熊との出会いを  
笛や太鼓の調べにのせて  
ユーモラスに演じる『熊舞』。  
毎年、『地獄まつり』や  
さまざまなイベントなどで披露され、  
訪れた観光客を魅了しています。  
この熊舞創作に携わり、  
後継者育成などで尽力されている方と  
総合学習で熊舞に取り組んだ、  
中学生を訪ね、熊舞への思い  
などをレポートします。

につながつたというのです。

この伝説をもとに、昭和56年、温泉街で働く若者たちと登別観光協会が中心となり、豊かにわき出る湯への感謝と多くの観光客が訪れることを願った『熊舞』という郷土芸能が創作されました。

### 自然体をモットーに 伝えていきます

「『熊舞』は、登別観光の活性化や観光客に長時間滞在してもらおうと創作したんですよ」と話すのは、『登別温泉熊舞の会』代表の小松克安さん。

現在、『登別温泉熊舞の会』の会員が中心となり、『地獄まつり』



市民レポートは、市民の皆さんが自由に発想・企画するページです。

や地域行事などで熊舞を披露。会  
では、観光客や団体からの出演要  
請があればそれに応えることもあ  
るそうです。



小松 克安さん

「昭和56年に『熊舞』を創作。以来、地道に活動を続け、各地のイベントから出演要請を受けるようになりました。平成10年には第41回伊勢神宮奉納全国民謡踊大会に出演し、伊勢神宮から感謝状を頂き皆で喜んだものです。先日、台湾からの団体客の前で踊ったときに、バシャツ！と鐘を鳴らして大見得を切ったらすごい拍手と歓声が響きました。中国の伝統芸能『京劇』と相通するものがあるのかも知れませんが、会員は普段、